

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 12月1日

【評価実施概要】

事業所番号	3671900409
法人名	医療法人 清和会
事業所名	グループホームふれあい三野
所在地	徳島県三好市三野町加茂野宮字東王地1551番地2 (電 話) 0883-76-2285
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 11月 21日

【情報提供票より】(平成19年10月27日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年 11月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	15 人
利用定員数計	18 人
	常勤8人, 非常勤7人, 常勤換算ユニット1 5.4人, ユニット2 5.5人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	380 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(10月27日現在)

利用者人数	18 名	男性	9 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	62 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	三好市立 三野病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は小高い山の中腹に位置し、周辺に関連施設が建っている。建物から一歩外に出ると四方の山並みが一望でき、四季を通じての変化を肌で感じることも出来る。眼下に吉野川の清流を見下ろしながらドライブを兼ねて地域の図書館に出向き地域の方との交流を楽しんだり、菜園での収穫を喜びあいながら家庭的な生活環境の中で暮らしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題であった、「権利・義務」の記載や、会議録の確認印、身体拘束の同意書、事業所間のネットワークを通しての情報提供について全職員で話し合い改善計画を立て、改善に取り組まれていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は評価の意義と目的を理解しており、自己評価を全職員で行いサービスの向上に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、利用者代表、利用者家族代表、地域包括支援センター職員、地域住民、民生委員、法人代表者等、多数の人達の参加があり活発な討議になっている。会議内容は、外部評価の結果報告、自己評価の取り組み、サービスの状況と現状報告、行事内容、課題の検討等、地域への理解と協力を得ながらホームの質向上に活かしている。会議は2ヶ月に1回定期的に開催されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の暮らしぶりや健康状態は、定期的に手紙を書いてもらったり、担当者が手紙を出したり、新聞を発行をする等、利用者家族に報告と相談をこまめに行っている。金銭管理においては、全利用者家族から確認の取れる方法を検討している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	保育所、小学校、秋祭り、地域で行われているゴミ拾い等の地域行事に参加したり、ホームの行事に招待しながら馴染みの関係作りに努めている。地域にある図書館の利用は、利用者にとって同世代や2世代、3世代との自然な交流の場になっている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時の理念を各ユニットのわかりやすい場所に掲示している。地域密着型サービスとしての理念は作成されていない。	○	地域密着型サービスとしての理念を作成し、わかりやすい場所に提示することが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のミーティングで管理者、職員で話し合い、ケアに活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育所・小学校・秋祭り・地域のゴミ拾い等に積極的に参加している。また、ホームの行事には地域の人たちの参加があり、地域との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組むようにしている。前回の外部評価の結果を踏まえた改善計画が実施されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、そこでの意見をサービス向上に活かせるよう事業所で検討し、実践に努めている。また、地域の行事等の情報を収集し、参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは、運営推進会議以外でもホームの行事・地域行事等を通して話し合いの場を多く持つことができている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや、健康状態は定期的に担当者が手紙を書いたり、ホームの新聞を発行している。金銭管理では、全利用者家族に確認をしてもらうまでには至っていない。	○	金銭管理では、全利用者家族からの確認を取られたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には手紙や訪問時、家族会等で、何でも意見を言ってもらえる雰囲気作りをしている。出された意見や要望はミーティングで話し合い反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定化している。また、パート職員も定着している。新しい職員が入る場合は、利用者きちんと紹介し、綿密なフォロー計画を立て対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内では、一週間に一度の勉強会を開いている。また、それぞれの段階に応じた研修を計画的に行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村との連携を密にとり、他のホームの現状や実情を知る機会を設けている。県グループホーム協会を通して協力と研修も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の面談で、これまでの経緯について本人の落ち着く場所でゆっくり話を聞き、安心感を持ってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備や家事全般にわたり、その人その人に合った活動で、お互いに協働しながら和やかな生活のできる関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけに努め、利用者の希望や思いを聞いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望、必要な関係者、町内の図書館や小学校の催しへの参加等社会資源の活用を視野に入れたケアプランの作成をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者一人ひとりに担当職員を決め、より細かい見直しや変化に対応している。見直し以前に変化が生じた場合には、本人、家族に説明をして、計画変更の同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。医療連携や協力病院の協力体制も得られ、訪問看護ステーションからは、週1回看護師による相談指導、助言がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人希望のかかりつけ医との連携をとっている。また、24時間いつでも相談・協力の得られる医療機関との関係を密に結んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を踏まえて方針を共有している。また、状態の変化があるごとに、医師、職員が連携を取り、随時確認しながら支援につなげている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングの折に、職員の意識向上を図ると共に利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。また、全ての職員が、個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にして、共に見守り一緒に生活をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や調理、盛り付け等、時間がかかっても利用者と共に行い、同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるような心配りをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めず、利用者とその日の希望を聞いている。毎日の入浴を希望する人に対しても対応できている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味などを活かした支援をしている。近くにある温泉へは訪ねてきた家族同伴で、出かけられる利用者も増えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所周辺の散歩や、畑への食材取り、近くの図書館へ本を借りに行く等、日常的に外出できるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の玄関はいつも開放されている。職員が見守りを重視し、利用者が外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声かけをして一緒について行く等、安全面に配慮して、自由な暮らしを支えるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回、利用者と共に避難訓練を行っている。また、常に災害時の訓練方法・経路をシミュレーション訓練している。地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立を基本に、入居者一人ひとりの状態に合わせた調理方法を工夫している。また、食事摂取量と水分摂取量は共に個人ファイルに記録し残している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間には掘りゴタツのある畳敷きのコーナーがあり、利用者が思い思いに過ごせる居心地の良い共用の空間になっている。収穫した野菜をテーブルに置き、季節感が感じられるような工夫もされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みや馴染みの物等を生活スタイルに合わせて用意し、居室には、家族からのプレゼントや家族の写真が置かれている。また、のれんや食器等、好みのものが持ち込まれている。		